

第5回 株式会社サインポスト倫理委員会 議事録

日時 平成20年3月21日(金) 15:30~17:00

場所 株式会社サインポスト 会議室

出席者 委員長 鎌田 武信

副委員長 小杉 眞司

委員 広野 光子

山崎 義光(社内委員)

瀧口 宗男(社内委員)

欠席者 池上 博司

水野 武夫

1. 報告事項

遺伝子検査による動脈硬化リスク判定サービスの進捗状況

株式会社サインポスト代表取締役山崎義光より、平成18年12月から開始された「動脈硬化リスク判定サービス」について、協力医療機関数や総受託数等の進捗状況が報告された。

2. 審議事項

遺伝子検査による新サービス「運動&栄養プログラム」リリース開始の件

株式会社サインポスト代表取締役山崎義光より、新サービスの概要が説明され、質疑応答の結果、本議案は満場一致で承認された。

本議案の採決には、山崎委員は提案者、瀧口委員は社内委員であるため参加しなかった。

なお、主な質疑応答は以下の通りである。

【小杉副委員長】今回開始する「運動&栄養プログラム」サービスはどういった状況下での導入を想定しているのか。

【山崎委員】4月から特定健診・特定保健指導が義務化されるにあたり、多くの医療機関は健保組合からアウトソーシングを受けている。それらの医療機関を中心に本サービスを導入していただき、特定健診・特定保健指導ツールとして活用されることを想定している。

【小杉副委員長】遺伝子情報の管理はどのように行うのか。

【山崎委員】医療機関に本サービスを導入することで、遺伝子情報は医療機関で保管・管理されるため、健保組合が個人の遺伝子情報を取り扱うことはない。

【小杉副委員長】健康に関するさまざまな情報があふれている中で、自身の遺伝的

体質から特に必要とされる情報をピックアップできることは意義がある。ただし、実際の栄養指導では、受診者の食生活に関する情報も重要であり考慮される必要がある。今回のプログラムで提示される情報との整合性をとっていく必要があり、サービス開始後、モデルケースが構築できれば望ましい。

【山崎委員】本プログラムを用いて、生活習慣がどの程度改善できたかというエビデンスもあわせて、今後モデルケースの構築に努めたい。

【鎌田委員長】資料4のサインポスト遺伝子検査同意説明文書中、「A、Bコース」とあるが、その説明がされていない。

【山崎委員】Aコースは動脈硬化リスク判定、Bコースは糖尿病合併症リスク判定の意味であるが、その記載がないため、資料を修正する。

【小杉副委員長】資料1のインターフェイスで、遺伝因子リスクのスケールがわかりづらい。「多い」「少ない」だけでなく、5段階程度区分されているほうが受診者の理解が得やすい。

【山崎委員】0（少ない）～100%（多い）を5段階に区切って表示する。

【広野委員】資料1のインターフェイスで、「酸化ストレス/アンチエイジング」とあり、「アンチエイジング=抗老齢化」を意味するが、抗老齢化に関する遺伝因子を測定しているのか。老齢化に関する遺伝因子を測定しているのであれば、「エイジング」とすべきではないか。

【山崎委員】測定遺伝子は老齢化に関するものである。「アンチエイジング」という表現の方が認知度が高いため、その表現を用いた。ただし、受診者が誤解する可能性があるため、「酸化ストレス/エイジング」に表現を変更する。

以上

録 田 武 信

